



発行：さいとう歯科
 〒272-0137
 千葉県市川市福栄3-18-22
 Tel：(047)399-8217
 Fax：(047)399-8217

桜と富士と女神のはなし

4月は「卯（う）の花が咲く月」の「卯の花月」から、卯月（うづき）と言うと言われてます。でも、日本人にとって、4月を代表する花は、やはり「桜」でしょう。

見渡せば春日（かすが）の野辺（のべ）に

霞（かすみ）立ち咲きにほへるは桜花かも

奈良時代の歌集『万葉集』に一番多く詠まれている花は119首で「梅」。桜は44首。奈良時代、「花」と言えば「梅」でした。しかし、「桜」は寒さから解放され、陽気な時節の到来を告げる花として人気があり、平安時代以降は一番になりました。

「サクラ」の語源は、春の里へ訪れる稲（さ）の神が、依ります座（くら）の木説や、沢山の花が咲くため複数の等（ら）を付けたとする説、神話に登場する「コノハナサクヤヒメ」という女神から名付けられたとする説などがあります。

コノハナサクヤヒメは、木の花が咲いたように華やかな女神という意味です。絶世の美女で、ニギノミコトと結婚し、火の中で、海幸彦（うみさちひこ）・山幸彦（やまさちひこ）を無事生んだ、神武天皇の祖母に当たる女神様です。

桜と富士山という構図があります。実は、コノハナサクヤヒメは、この富士山の神様でもあるのです。火山のことを古語で「アサマ」と言います。そう、あの浅間山は火山そのものの呼び方だったのです。ですから、富士山も「アサマヤマ」と呼ばれていました。コノハナサクヤヒメが富士山の神様になったのは、噴火する富士に水をかけ、鎮めたからと言います。さすが、火の中で無事に御子神を生んだ女神様です。ですから、富士山を祀る神社は「浅間（せんげん）神社」と言うのです。この富士山本宮浅間大社には、『竹取物語』と良く似た話が伝わっています。「かぐや姫」のモデルとも言われ、富士山頂から花の種をまいてサクラを咲かせたとも言われています。あれ、「花咲じいさん」のクライマックスシーンにも似ていませんか。

『万葉集』には、

梅の花咲きて散りなば桜花継ぎて咲くべなりにてあらず
と桜の咲くのを待ち、

桜花時は過ぎねど見る人の恋の盛りと今し散るらむ
と惜しまれつつ散る。そして、花吹雪や水面に流れる桜花に来春を想うなど、さまざまな楽しみ方があるようです。

誰のところにも新しい季節は来ます。新しい学校、新しいクラス、新学期、新社会人や新しい職場に異動した人などなど、皆さんにとって素敵な桜が咲きますように。

そして、震災で被災された方々が早く暖かな気持ちで、桜を見られますように。

財団法人 とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター 篠原祐一

口内ケアと誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）

自由に水が使えないと感染症の危険が・・・

この度起きた大震災では、多くの方が避難所で水に不自由される生活をなさっています。また、甚大な被害をこうむった近隣の浦安市では、ガスは復旧したものの、上下水道はまだ相当の期間にわたって復旧に時間のかかる場所もあります。震災直後から9日間断水となった岩手県山田町へ医療支援チームの一員として入った、大学の先輩である、昭和大学歯学部教授の高橋浩二先生は「口内ケア」の大切さを次のように述べています。

「自由に水が飲めず、歯磨きもやっていないと、口の中で細菌が繁殖しやすい。避難所生活では、栄養状態の悪化や睡眠不足、ストレスも重なり、感染症を引き起こします」



実際に町立山田小学校の避難所では震災の7日後になり、誤嚥性肺炎を起こして病院に運ばれた高齢の男性がいらっしまったそうです。

誤嚥性肺炎って？

肺炎に口内ケアが関係しているなんて、ちょっとイメージできないかもしれませんが、どうしても、歯の汚れは口の中だけの問題、と思いがちです。

本来、口に入れたものや唾液は食道を通過して胃に落ちていきます。間違えて気管に入るとむせてしまいますよね。口内にはいろいろな細菌がすんでいて、病気や加齢などで飲み込む機能や咳をする力が弱くなると、入るはずのない気管に細菌が入ってしまうことがあり、それにより肺炎を発症することがあるのです。胃液の逆流による場合もあり、高齢者では命にかかわるケースも少なくない病気です。

どうすれば予防できる？

誤嚥性肺炎は、口の中の細菌を減らす口内ケアや、高齢者などに対し、食べ物や飲み物を口に入れて、噛み、飲み込むといった機能を回復することで予防することができます。高橋教授は、「大きく口を開けて、声を出して下さい」と被災者に対してアドバイスしていたそうです。

ご自身の歯磨きに加えて、歯科衛生士による口内ケアは細菌を減らす効果があります。そして、口から食べる機能は免疫力を上げることにもつながるのです。

参考引用：医療ルネサンス

「震災の現場から(6)口内ケアで感染症予防」
読売新聞 23. 3. 30

看護師のための口腔ケア総合情報サイト

口腔ケア・ドットコム
 (株)オーラルケア

